

AI・再生可能エネルギーで農業の確立めざす！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



事業者名 有限会社折林ファーム
(由利本荘市)

代表者 取締役 三浦 徳也

経営概況

経営面積 | 112ha

作物 | 水稲、たまねぎ、そば、ばれいしょ等

養鶏 | 比内地鶏 1.3 万羽

社員 | 8名

販売先 | 寿司店や県内スーパー、介護施設、レストラン等



有限会社折林ファーム HP

東京からUターン後、営業の仕事で農家と交流するうちに自分も農業をしたいと現法人に飛び込みました。先代社長が倒れたことをきっかけに、若手社員でありながら平成31年社長に就任し、由利本荘市松ヶ崎地域の農地を任されることになりました。持ち前の営業力で販路を開拓し農業者や実需者とのネットワークを広げ、地域の若い農業者の目標とされる存在となっています。

▶ きっかけ

社長になった時、法人の経営は苦しくベテラン社員が離れ、借りていた農地も引き上げられそうになりました。地権者との交渉は難航しましたが、最後は「地域の農業を若い我々が今後も継続し守りたい」という熱意が伝わり、農地を任せても良いという人が増えてきて、法人として再スタートできました。

▶ 取組

地域では担い手が著しく減少し、法人の受託面積が年々増え、地域の担い手として期待される反面、就業時間が不規則になるなど法人の負担は増えました。継続的に社員を確保するため、合理的な労務管理を行うとともに、スマート技術を活用して省力化を進めています。



● 格納庫でハイポーズ(折林ファームの皆さん)

主力の水稲では、令和元年度に産地パワーアップ事業を活用してミニライスセンターを整備しました。令和8年度に松ヶ崎地域の基盤整備事業が完了を予定していることからドローンを使用した直播栽培の作業や新たに導入した管理システムでのほ場管理は、作業時間の大幅な低減につながるそうです。

たまねぎは、大手外食チェーンからの需要増により作付面積は増えており「秋田県タマネギ産地形成コンソーシアム」による「秋田県産タマネギの生産性改善による自給率向上モデル実証」に参加し、最先端のロボットトラクターやAI自動選別機導入などによる人手と作業時間の削減に取り組んでいます。



たまねぎ選別機について説明する三浦代表

比内地鶏の生産も手掛けており、令和7年3月に従来の6棟の鶏舎に加え6棟を増築しました。今後2棟を増築し飼養羽数を年間2万羽に増やす予定です。

ソーラーシート、小水力発電を電源にした自動給餌システムや監視カメラと携帯電話を組み合わせた鶏の状態確認システムを稼働中とのことです。



● 比内地鶏の鶏舎6棟(7年3月完成)

▶ これから

「昔からここで農業をしてきた人から見れば、我々は「よそ者」かも知れないが、若い社員は本当によく地域の人と仲良くなった。小水力や太陽光などを利用した再生可能エネルギーを農業に活用しているが、それだけに留まらず、そのエネルギーで公共の電気自動車やWi-Fiネットワークと監視カメラの運用も考えており、「地域のエネルギーを使った農業と地域防災」の形を確立し、地域と農業を継続し守れるようにしていきたい。」と話してくれました。

(●写真:有限会社折林ファーム提供)



東北農政秋田県拠点